

知的障害児の造形表現における見立ての援助方法に関する研究

The Effects of Support in Formative Activity Containing Symbolic Use of
Children with Mild to Moderate Intellectual Disabilities

渡 邊 雅 俊*

WATANABE Masatoshi

要約：本研究の目的は、知的障害児の造形表現における見立ての援助方法について検討することであった。対象は Watanabe (2011) の見立て描画において、制作対象を一般的に見られるような色や形で表現する典型表現の作品を制作した特別支援学校高等部の生徒 5 名であった。主要な援助手続きは、素材である型紙シールの合成方法をカードで例示することと、プランニングにおいて、テーマの解釈と構図を練ることを促すことであった。その結果、4 名はデザイン性や物語性が加味された新奇表現の作品を制作することができた。他の 1 名は、典型表現を継続した。これらの援助経過から、本研究の援助方法の有効性と限界について考察した。

キーワード：知的障害、造形表現、見立ての援助、プランニング

I. はじめに

知的障害児にとって、描くことや作ることによる造形表現は馴染みがあるうえ、内容理解が容易で動機を高めやすい。また、卒業後も仕事や余暇を通して関わる可能性が高いと考えられる。そのため、従来から特別支援学校では、図画工作・美術や作業学習、あるいは行事等の教育実践に造形表現が活用されてきた（奈良・星野, 2007）。

造形表現を主題とした授業において、よく用いられる活動に「見立て」がある。見立ては、外在する素材や事象を内的過程で操作し、他のイメージを形成することである（上野, 1995; 若山, 2008a）。例えば、子どもが石や木切れを拾い集め、それらを人の顔のように配置して、お父さんの顔と名付けるような行為を指す。このような見立てにおける素材への働きかけは、素材自体に形質的変形と意味づけをもたらす。そして、そのことが子どもの思考に働きかけるという相互作用が成立する。先の例で言えば、石や木切れでお父さんの顔を制作した子どもが、作品を見てお父さんのことを想起したり、作品の応用を考えたり（e.g., お母さんや友だちの顔の制作）することである。こうした相互作用こそが造形表現における体験の根幹であり、見立てを促す授業や遊びは、子供の感性や表現、創造性の育成に重要な役割を果たすことが指摘されている（上野, 1995; 上野, 1998; 若山, 2008a）。

従来、知的障害児の認知発達に関する研究は、内的過程で情報の保持や操作を可能とする表象機能や作動記憶容量における発達の遅れが主要な特性であることを指摘してきた（e.g., Spitz, 1987; Bray, Fletcher, & Turner, 1997）。これらの認知特性は、内的過程における複雑な操作を要する見立てにも強く作用すると考えられる。Watanabe (2011) は、精神年齢 7 歳から 10 歳水準の知的障害児を対象として、型紙シールを何かに見立てて面白い絵を制作する見立て描画を実施した。その結果、知的発達水準に対応する生活年齢の非知的障害児¹⁾よりも、作品の産出数が少なかった。また、作品

* 障害児教育講座

の質的側面では、作品対象を一般的に見られるような色や形で表現する典型表現が多く、対象にデザイン性や物語性が加味された新奇表現を示した人数が少なかった（Figure 1）。上野（1998）は、子

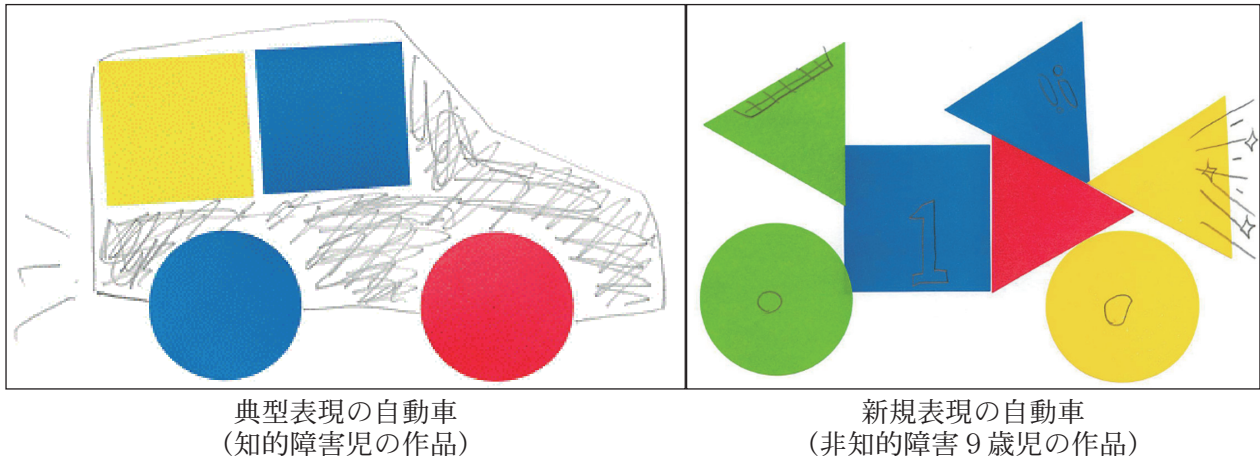


Figure 1 見立て描画における典型表現と新規表現

どもが見立てることを通し、現実世界の枠組みや制約から離れることによって、自己経験を再構成することが大切であると述べている。このような観点に立てば、典型表現の作品を制作した知的障害児は、十分な見立てを経験したとは言えず、新奇表現に向けた援助が必要であると考えられる。

見立てを活用した実践は数多く行われているが、見立ての援助に焦点を置いた知見は少ない。若山（2008b）は、非知的障害 5 歳児に無意味線画を何かに見立てて描画させる課題を与え、発想の手がかりとなる言葉かけ（e.g., この形は花の葉みたい）を行った。その結果、見立てが促され、線画を典型的なものに見立てた絵とは異なる想像的・情緒的意味が加えられた絵を描くようになる傾向が示された。また、見立てが困難と考えられる精神年齢 2 歳水準の重度知的障害児を対象とした研究（室橋・広川, 1994; 室橋・守谷, 1993）では、援助者と交互に描画する手続きと、自発的な描画パターンを利用した援助を行った。そして、バスに見立てた描画が可能になったばかりでなく、多様な対象を描くことができるようになった。

以上から、援助者が子どもの実態に応じた声かけや手続きを工夫することで、見立ての向上が期待できる。そこで、本研究は Watanabe（2011）の見立て描画において、典型表現の作品を制作した知的障害児を対象とし、新規表現への移行を目的とした教示や教材の工夫を試みる。そして、その効果について検証し、造形表現の見立てを促す援助方法について検討を行うことを目的とする。

Ⅱ．方 法

1．対象児

特別支援学校高等部に在籍する知的障害のある生徒 5 名、A 君（男子、生活年齢：17 歳 8 ヶ月、精神年齢²⁾：5 歳 4 ヶ月）、B 君（男子、生活年齢：18 歳 6 ヶ月、精神年齢：6 歳 2 ヶ月）、C 君（男子、生活年齢：17 歳 10 ヶ月、精神年齢：7 歳 10 ヶ月）、D 君（男子、生活年齢：18 歳 4 ヶ月、精神年齢：5 歳 9 ヶ月）、E さん（女子、生活年齢：17 歳 9 ヶ月、精神年齢：3 歳 9 ヶ月）であった。これらの対象児は、担当教師によって課題を遂行するうえで不利となるような視覚、聴覚、および運動の顕著な疾患がないことが確かめられた。また、造形表現を伴う活動に苦手意識を持っていないことも確認された。

2. 課題と材料

課題は「面白い絵」をシールの貼付と描画によって、自由に制作することであった。材料は鉛筆(2B)と画用紙(A4),シールであった。シールは色と形が異なる12種(形:丸,四角,三角×色:赤,青,黄,緑)があり,各種1枚ずつ12枚が用意された。大きさは,一辺が5センチであった。対象児は,これらのシールを制作に利用することが求められるので,自発的に何かに見立てると予測した。

3. 援助手続き

最初に特別な援助を行わない通常段階を実施した後,休憩を挟んで援助段階を行った。調査は対象児の在籍する学校内の一室で個別に実施し,経過については調査協力者が筆記によって記録した。教示を含めた全体の調査時間は約15～25分であった。

(1) 通常段階 まず援助者は,対象児と絵に関する簡単な会話(e.g.,「絵をかくのが好きですか?」,「いつもはどんな絵をかいているの?」など)を数分行い,動機付けに努めた。次に画用紙と鉛筆,シールを渡して「これらのシールを使って何か面白い絵を作ってください,絵は何でもよいです,終わったら私(援助者)に教えてください」と教示した。対象児から制作終了の報告があった後,援助者が質問しながら,制作した全ての内容を確認した。なお,シールの貼付だけで制作を終えた場合は「これ(シール部分)が何だか分かるようにかき足してもらえますか」と描画を促した。

(2) 援助段階 援助の基本的な手順は次の通りであった。①素材の利用方法への援助:対象児はシールを組み合わせたらず,単独で使用する傾向があった。そこで「シールを合わせて使ういろいろな形ができるよ」と言いながら,シールの合成方法をカード(Figure 2)で例示した。②プラ

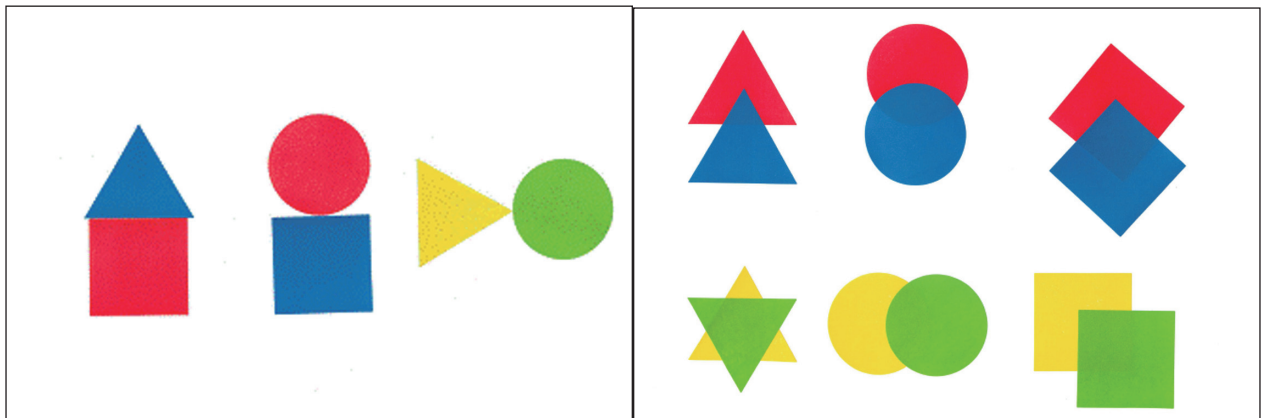


Figure 2 シールの合成方法の例示カード

ンニングへの援助:教示が終了すると,対象児は即時的に制作を始める傾向があった。具体的には,教示が終わると,すぐにシールの貼付や描画を始め,途中で考え込むという制作パターンを示す者が多い。これは,彼らが試行錯誤的に作品を制作しており,制作する前にテーマの解釈や構図を十分に練っていないことを示唆する。そこで,テーマの解釈を促す教示「おもしろい絵を作るにはどうすればよいか」を与え,通常段階で制作した作品(e.g.,自動車)に合わせてテーマを具体的に解釈(e.g.,宇宙を走る自動車,未来の自動車)できるように導いた。次に「今度は絵をどうやって作るか頭によく思い浮かべて,それが決まったら作り始めましょう」と構図を練るように促した。これらの援助を行った後,新しい画用紙とシールを対象児に渡して制作を開始してもらった。そして,制作を終えた時点で,作品内容の説明や制作の感想を聴取した。

Ⅲ．援助の経過と結果

対象児毎に通常段階と援助段階における作品とその制作過程及び感想等について整理した。

1．A君 (Figure 3)

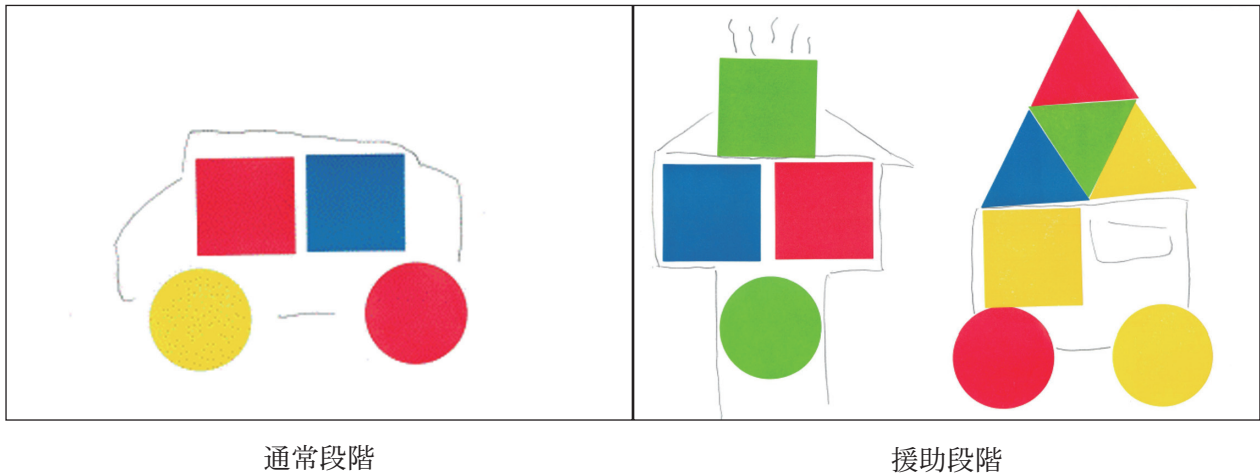


Figure 3 A君の作品の変化

A君は通常段階において、典型表現の「自動車」1台のみを制作した。制作過程は、教示終了後、即時的に丸いシールをタイヤに見立てて貼付し、自動車の形を描画して、最後に四角シールを前後のドアガラスとして貼った。援助段階では①素材の利用方法への援助を行った後に、②プランニングの援助において、援助者が「自動車を面白くするにはどうすればよいかな？」と問いかけた。しばらく考えた後、「空を飛んだり、海に潜ったりする」と答えたので、「それはどんな自動車だろう？」と援助者が再度質問すると、「不思議な、変な自動車かな」と述べた。そのアイデアを「それは面白い自動車だろうね」と肯定した後、「今度は絵をどうやって作るか頭によく思い浮かべて、それが決まったら作り始めましょう」と構図を練るように促した（以下、構図促進教示）。このような援助の後に制作されたのが、「三角屋根のついた自動車と煙突のある家」であった。制作過程は、「家にある変な自動車にしたい」と言う、初めに自動車を三角屋根の部分で慎重に考えながら作り、その下に通常段階と同様の自動車を加えた。その後、「家は煙突があるほうがいい」と述べ、四角シールを貼ってから煙を描いた。制作後の感想では「自分の家の三角屋根を気に入っているので自動車にもつけてみた」と述べた。このように、ユニークな発想に基づいた新奇表現による作品となった。

2．B君 (Figure 4)

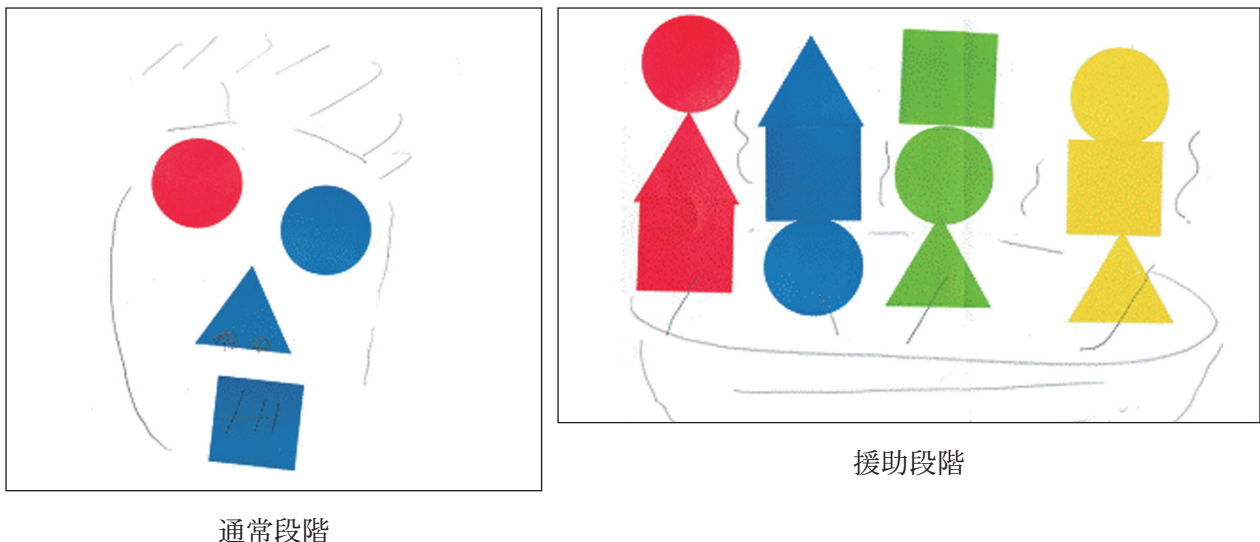
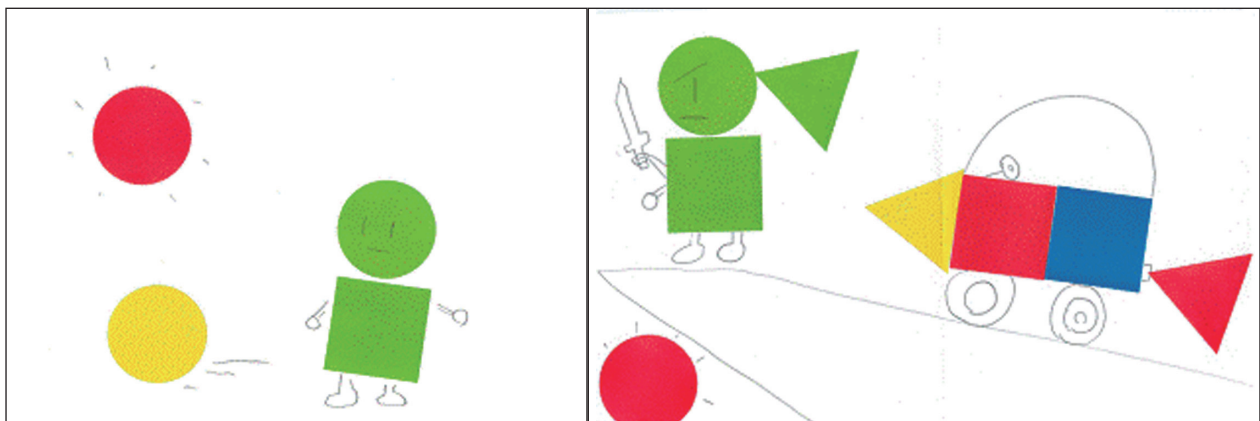


Figure 4 B君の作品の変化

B君は通常段階で典型表現による「顔」を制作した。その過程は、教示を聞き終わると即時的に目として丸シールを貼った。その後、少し考えてから、顔の輪郭を描き、鼻として三角シール、四角シールを顔に見立てて貼付した。援助段階における①素材の利用方法への援助では、「まるで別な形に見える、何かと似ているな」等の発言が見られ、シールを組み合わせることに興味を持った様子が伺えた。その後の②プランニングの援助では、「面白い顔にするにはどうすればよいかな？」と質問した。しかし、先ほどのシールの組み合わせに注意が向いていたのか、「さっきのカードが僕の好きなおでんのようなでした」と答えた。そこで、「おでんにしてみたら」と応じると、構図促進教示を行った後の制作過程では、「実は昨日の夕食が好物のおでんだったので嬉しかった」というエピソードを述べながら、楽しそうに取り組んでいた。今度はシールを貼る前に、おでんの鍋を描き、それからおでんを三角と四角、丸シールを貼って制作した。B君の制作後の感想によれば、右端はおでんではなくて、自分であり、「おでんとそれを食べようとしている僕」というテーマであることを説明してくれた。夕食で好物を食べる楽しい状況を思い浮かべて制作したと語っており、物語性のある新奇表現と言ってよい作品となった。

3. C君 (Figure 5)



通常段階

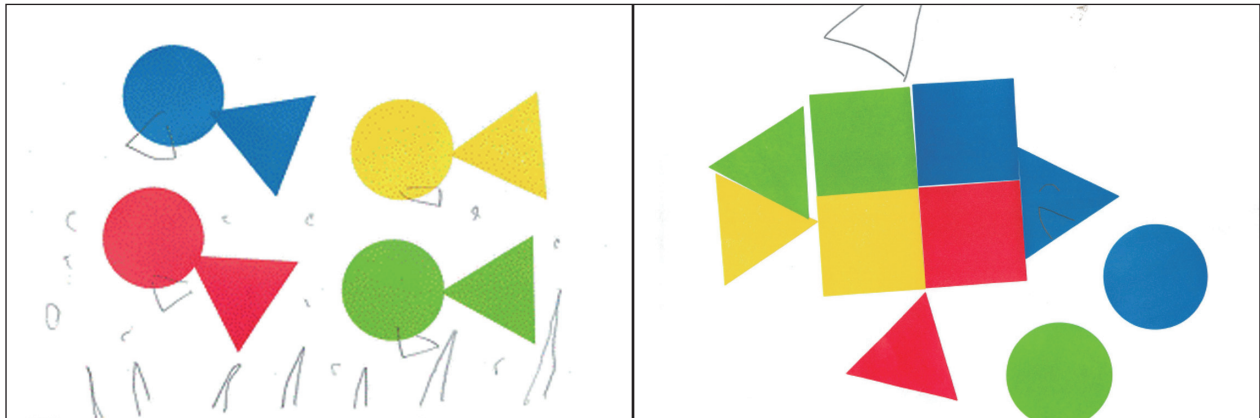
援助段階

Figure 5 C君の作品の変化

C君は通常段階で「夕日と私」を典型表現で制作した。まず即時的に丸シールと四角シールを貼り、顔と手足を描いて自分を制作した。その後、少し考えてから丸シールを貼り、夕日とボールを加えた。援助段階では、①素材の利用方法への援助を行った後の②プランニングの援助において、「この絵を面白くしたいね、どうすればよいかな」と問いかけた。そうすると、「何でもいいの」と確認したうえで、「最近ハマっている漫画で」と答えた。そして、最終的に「僕が侍になって戦いに向かうところ」というテーマにしたいと述べた。援助者が構図促進教示を行った後、今度は、制作前にシールを見ながら考えている様子が伺えた。その後、初めに自動車、自分（侍）、夕日の順で制作していった。テーマは「夕日を前にした侍とその自動車」ということであった。想像世界のヒーローに自分を投影すると共に、ユニークな自動車をデザインした新奇表現の作品となった。

4. D君 (Figure 6)

D君は通常段階では、典型表現による「サカナ」を制作した。制作過程は、教示が終わるとすぐにシールを手にするが、貼る前に少し考える様子を見せた。そして三角シールと丸シールで4匹の魚を制作し、その後、魚のひれや水中の様子を表す泡や海草を描き入れた。D君によれば、家で飼っている金魚を思い出したとのことであった。D君の場合、通常段階の作品において、金魚のおなかの丸みやひれをシールで上手に見立てているが、さらに「面白い」表現を引き出すために援助段階を実施した。①素材の利用方法の援助で、シールの組み合わせ方を説明すると、「この組み合わせい



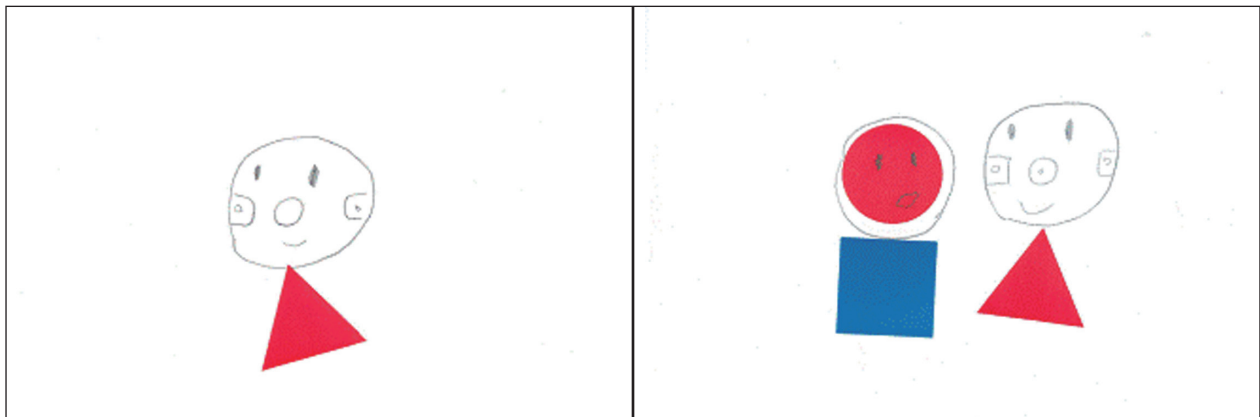
通常段階

援助段階

Figure 6 D君の作品の変化

いね」等の発言が見られ、興味を示した様子であった。②プランニングの援助においては、「この金魚さんたちを面白くしてみたら」と援助者が言うと、「大きくて、さっきのシールの組み合わせを使ってきれいにしてみたい」と答えた。構図促進教示を行うと、制作前にシールの組み合わせ方を熟考している様子が伺われ、しばらくシールに見入っていた。そして、四角シールを胴体として最初に貼付し、三角シールで顔、ひれを制作した。最後に丸シールを海の泡に見立てて貼った。制作後の感想によれば、テーマは「この世にないようなサカナ」であり、「きれいで大きい魚ができたので楽しかった」と述べた。シールの組み合わせ方に工夫が見られ、デザイン性に富む新奇表現の作品を制作することができた。

5. Eさん (Figure 7)



通常段階

援助段階

Figure 7 Eさんの作品の変化

Eさんは通常段階で「アンパンマン」を典型表現によって制作した。制作にあたっては、すぐに取りかからず、画用紙を凝視していた。このことから、教示が十分に理解できず、戸惑っていると思われたので、「今一番好きなものや人は何かな?」と声をかけると、三角シールを用いてアンパンマンを制作した。援助段階の①素材の利用方法について説明すると、感心した様子で「きれい」と述べた。次に②プランニングの援助に入ると、まず、援助者が「アンパンマンを面白くしてみようか」と問いかけたが、「面白くする」という言葉の意味理解が難しい様子だった。そこで「アンパンマンはどんなお話なの?」と聞くと、他の登場人物のことを話し始めたので、「その人たちが出てくる絵にすると面白いのでは」と援助者が提案した。構図促進教示の後に制作に取りかかってもらおうと、通常段階と同じアンパンマンを制作した。その後、しばらく考え込むと、四角シールと丸シールを貼っ

て、ジャムおじさんを制作した。制作後の感想では面白かったと述べ、アンパンマンについてのエピソードを話してくれた。Eさんの場合は、援助段階においても教示を十分に理解できない様子を示し、テーマの解釈を促すことが困難であった。また、素材の利用方法も一見しただけでは、組み合わせ方を理解することが難しく、具体的にシールをどのように貼り合わせていくのかを明示する必要があったと思われる。結果として、通常段階より人物が1名増えたものの、丸シールを顔に見立てた典型表現を継続してしまった。

IV. 考 察

本研究の目的は、知的障害児の造形表現における見立ての援助方法について検討することであった。そのため、見立て描画において典型表現の作品を制作した知的障害児を対象として、教示や教材を工夫することによる新奇表現への移行を試みた。具体的には、素材であるシールの合成方法をカードで例示することと、プランニングにおいて、テーマの解釈と構図を練ることを援助した。その結果、A君、B君、C君、D君の4名は、制作対象を一般的に見られるような色や形で表現する典型表現の作品から、デザイン性や物語性が加味された新奇表現の作品を制作できた。その一方、Eさんは、援助段階においても典型表現の作品を制作した。

以上の結果から、本研究で用いた援助方法は、知的障害児の造形表現における見立てに一定度の有効性があったと考えられる。まず、シールの合成方法をカードで例示する援助については、素材の操作可能性（色や形の合成や変形）を気づきさせることができたと推測される。B君は、例示されたシールの組み合わせ方に興味を示し、援助段階では、通常段階と全く異なるテーマの作品を制作している。これは、シールを組み合わせることで多様な形に変化することを理解したことで、自分が表現したい対象（好物のおでん）のイメージに、それを関連付けられたからだと推察する。

次に、プランニングへの援助は、造形表現の教示に頻出する「面白い絵を描きましょう」、「楽しそうな場面を描きましょう」のような抽象的な言葉の理解を助け、併せてイメージの形成を促したのではないかと考える。知的障害児は、一般に、言語理解に発達の遅れがあり、特に抽象的な言葉の意味を捉えることが苦手である。そのために「自動車を描きましょう、お父さんを描きましょう」といった具体的な教示でないといけない場合がある。しかし、造形表現では、子どもの感性や創造性が重視されるため、具体的教示はあまり行われない。A君、C君、D君は通常段階と援助段階において、テーマは大きく変わっていないが、表現の質的側面が明らかに異なっている。それは、面白さを具体的に解釈することを通し、自分にとって何が面白いことなのかを考え、それを具現化（e.g., C君の場合では自分が侍になって戦う）できたからだと推察する。こうしたことは、上野（1998）の指摘する「現実世界の枠組みや制約から離れる」経験に該当するものと考えられる。加えて、制作前に構図を練ることを教示したことが、形成したイメージをどのように表現するかという点に注意を向けることに有効であったのだろう。シール合成の仕方や配置、描画の使用等方法を制作前に考えることで、作品のデザイン性を高めることが可能になったと推測する。しかしながら、このような効果の妥当性については、詳細な内的過程の分析が必要であり、本研究の手続きからは十分な検討が行えなかった。

他方、Eさんは、本研究の援助方法では見立てを促すことが困難であった。その理由としては、教示理解の問題が考えられる。シールを貼ること、鉛筆で描くことはそれぞれ可能であるが、それらを使って何を制作するのかという点が十分把握してもらえなかった。援助者との会話に出てきたアンパンマンやジャムおじさんという想起が容易なイメージに依拠し、普段の描画にシールを加えるのみの制作となってしまった。特にプランニングの援助において、言葉でのやりとりだ

けであったことが、理解に負担をかけた主たる要因であったと思われる。

知的障害児の認知特性をふまえると、一般に独力で十分な見立てを行うことは難しい。しかし、本研究で示唆されたように、援助を行えば、一定の改善は可能であると考ええる。特にプランニングへの援助は有効である。造形表現の教育実践場面を想定すると、まず見立てる時間を制作開始前に十分に取ることが大切である。本研究でも見られたように、知的障害児は素材に注意が向き、すぐにそれらを使って制作を始めようとする傾向がある。制作の動機に配慮すれば、素材への働きかけを妨げるべきではないが、実際に制作し始める前に、立ち止まって熟考できるような支援が必要である。具体的な内容は、素材から何が想起できるのか (e.g., 自動車), そして、それをどのように表現するのか (e.g., きれいに, 楽しく, 面白く), さらに子どもの実態に応じて表現の解釈を深めること (e.g., D君が面白いをこの世にないようなと捉えたように) について援助者と一緒に考えることである。

- 1) 知的障害を持たないことを非知的障害と表記する。
- 2) 田中ビネー V (2003) を用いた。なお、精神年齢は知的発達水準の程度を示す 1 つの指標として利用した。IQ 値については、マニュアルに従い、対象児の生活年齢が高いために算出していない。

引用文献

- Bray, N. W., Fletcher, K. L., & Turner, L. A. (1997). Cognitive competencies and strategy use in individuals with mental retardation. In W. MacLean, Jr. (Ed.), *Ellis' Handbook of Mental Deficiency, Psychological Theory, and Research*. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- 室橋春光・広川香 (1994). 重度精神遅滞児における描画活動の事例的研究. 特殊教育学研究, 31(5), 23-29.
- 室橋春光・守谷朋伸 (1993). 精神遅滞児における描画活動の事例的研究—その 2. M.S 児における描画活動—. 富山大学教育実践センター紀要, 10, 89-99.
- 奈良峰博・星野常夫 (2007). 知的障害養護学校における図画工作・美術の歴史に関する研究—施設における造形表現活動との比較による—. 「教育学部紀要」文教大学教育学部, 41, 5-19.
- Spitz, H. H. (1987). Problem-solving processes in special populations. In J. G. Borkowski, & J. D. Day (Eds.), *Cognition in special children : Comparative approaches to retardation, learning disabilities, and giftedness*. Ablex Publishing, Norwood NJ, 151-193.
- 田中教育研究所 (2003). 田中ビネー知能検査 V 田研出版
- 上野行一 (1995). 美術教育と「みたて」の作用 (1). 美術教育学, 16, 39-49.
- 上野行一 (1998). 小学校図画工作科の題材における「みたて」の造形の教育的価値—美術教育と「みたて」の作用 (5) —, 美術教育学, 53-64.
- 若山育代 (2008a). 幼児の見立て描画における言葉かけ研究の意義と展望. 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部, 57, 9-67.
- 若山育代 (2008b). どのような言葉かけが幼児の発想を支援するのか? —見立て絵にみられる 4 歳児と 5 歳児の想像的・情緒的表現に着目して—. 美術教育学, 29, 631-643.
- Watanabe, M. (2011). Cognitive Processes in Formative Activity Containing Symbolic Use : Students With Mild to Moderate Intellectual Disabilities. *The Japanese Journal of Special Education*, 48, 581-191.